



安全データシート

デュポン・東レ・スペシャルティ・マテリアル株式会社

化学品の名称: MOLYKOTE™ M Dispersion

発行日: 2018/10/17

印刷日: 2019/12/04

デュポン・東レ・スペシャルティ・マテリアル株式会社は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)SDSを熟読され、ご理解されるようお願いしております。使用条件によって他の対応を必要とする場合以外は、記載注意事項を遵守されるようお願い致します。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: MOLYKOTE™ M Dispersion

推奨用途及び使用上の制限

特定用途: 潤滑剤および潤滑剤添加物

会社情報

デュポン・東レ・スペシャルティ・マテリアル株式会社

100-6111

東京都千代田区永田町2丁目11番1号

会社電話番号:

81 3 62058900

SDSQuestion-AP@dupont.com

緊急連絡電話番号

24時間対応緊急連絡先: 0120 814 221

緊急連絡電話番号: 0120-814-221

2. 危険有害性の要約

GHS分類

本製品は、化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(GHS)に基づく危険有害性ではない。

他の有害危険性

データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
水素処理重パラフィン系石油留分	64742-54-7	(9)-1692	(9)-1692	>= 60.0 - < 70.0 %

水素化脱蠟 C24-50 溶剤抽出潤滑油 (石油)	101316-72-7	9-1692	(9)-1692	>= 20.0 - < 30.0 %
鉍物油の混合物	Not available	非開示/CBI	非開示/CBI	>= 1.0 - < 10.0 %
硫化モリブデン	1317-33-5	(1)-481	(1)-481	3.3%
蒸留物 (石油)、水素処理軽質パラフィン系	64742-55-8	9-1692	(9)-1692	>= 0.1 - < 1.0 %
溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分	64742-65-0	(9)-1692	(9)-1692	>= 0.1 - < 1.0 %
石油留分の溶媒精製重パラフィン	64741-88-4	9-1692	(9)-1692	>= 0.1 - < 1.0 %

4. 応急措置

必要な応急措置

一般的アドバイス:

応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服 (耐薬品手袋、飛沫防護) を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第 8 項の保護具の情報を参照。

吸入: 新鮮な空気の場所に移動させる。呼吸停止の時は人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具 (ポケットマスクなど) を使用する。呼吸困難の時は、有資格者が酸素吸入を行う。医師を呼ぶか、医療機関に搬送する。

皮膚接触: 多量の水で洗い流す。作業場内に適切な緊急用安全シャワー設備を設置すること。

眼に入った場合: 数分間眼を徹底的に水で洗い流す。1~2 分洗眼してからコンタクトレンズをはずし、さらに数分洗い続ける。症状があれば、医師の診察を受ける。眼科医が望ましい。

飲み込んだ場合: 嘔吐させない。直ちに医師の診察を受けるか、救急病院に搬送する。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:

上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目 11 の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

医師に対する特別な注意事項: 患者に十分な換気および酸素吸入を維持すること。胃洗浄を行う場合、気管内や食道の管理が必要である。胃洗浄を考える時は、肺への吸引による危険性と毒性影響を

比較検討しなければならない。吐かせるかどうかの判断は医師が行うこと。特別な解毒剤はない。ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。

5. 火災時の措置

消火剤: 水噴霧 耐アルコール泡消火剤 二酸化炭素 (CO₂) 粉末消火剤

使ってはならない消火剤: 知見なし。

特有の危険有害性

有害燃焼副産物: 炭素酸化物 硫黄酸化物

異常な火災および爆発の危険: 燃焼生成物への曝露は健康に害を及ぼす場合がある。

消防士へのアドバイス

消火手順: 現場の状況と周辺環境に応じて適切な消火手段を用いる。未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。安全であれば未損傷コンテナを火災領域から離す。区域より退避させること。

消火を行う者の保護: 消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 安全な取り扱いの助言や、個人保護具の推奨事項に従う。

環境に対する注意事項: 環境への放出は必ず避けなければならない。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。広範囲に広まるのを防ぐ(封じ込めまたはオイルバリアなどによる)。汚染された洗浄水を保管し、処分する。流出が著しく回収できない場合は、地方自治体に通報する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: 不活性な吸収材で吸収させる。適切な吸収剤を使用して、漏洩物を除去すること。本製品を放出、廃棄する際には、各地方自治体および国の規則に従って処理すること。その放出に使用された物質についても同様である。どの規則が適用されるかを確認する必要がある。多量にこぼれた場合、防液堤を築く等の適切な封じ込め手段を講じて、広がらないようにすること。防液堤に使用した資材をポンプで吸い上げることができる場合には、回収した物質を適切な容器内に保管する。本 SDS の項目 13 および 15 において、地方自治体および国の法規制の記載あり。

以下の項目を参照のこと: 7、8、11、12 および 13

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い: 漏れや廃棄物を防止し、環境への放出を最小限にするよう注意する。十分な衛生的作業を行い安全規定に従って取扱う。

適切な換気装置の下でのみ使用する。ばく露防止及び保護措置の項の設備対策を参照。

保管: 適切なラベルのついた容器に入れておく。各国の規定に従って保管する。

次の製品種類といっしょに保管しない: 強酸化剤。
容器に不適な素材: 知見なし。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名	国際規制	リストのタイプ	数値/注記
水素処理重パラフィン系石油留分	ACGIH	TWA 吸引性画分	5 mg/m ³
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M ミスト	3 mg/m ³
硫化モリブデン	ACGIH	TWA 吸引性画分	10 mg/m ³ , モリブデン
	ACGIH	TWA 吸入性画分	3 mg/m ³ , モリブデン
蒸留物(石油)、水素処理軽質パラフィン系	ACGIH	TWA 吸引性画分	5 mg/m ³
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M ミスト	3 mg/m ³
溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分	ACGIH	TWA 吸引性画分	5 mg/m ³
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M ミスト	3 mg/m ³
石油留分の溶媒精製重パラフィン	ACGIH		(L)
	ACGIH	TWA 吸引性画分	5 mg/m ³
	ACGIH		(L)
	日本産業衛生学会 (許容濃度)	OEL-M ミスト	3 mg/m ³

曝露防止

工学的制御: 空气中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。許容濃度や管理濃度が設定されていない場合、密閉システム内のみで使用するか、局所排気装置を用いて使用する。排気システムは、蒸気・エアゾール発生源およびその場所で作業する人々から空気が流れさるように気流を設計する。換気が不十分な場所では致死濃度になることがある。

保護具

呼吸用保護具: 許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。許容濃度が未設定の場合、認可された呼吸器用保護具を使用する。特定の作業や物質の空气中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。密閉した場所または換気の不十分な場所では、認可された自給式呼吸器を使用するか、補助空気ボンベ付陽圧エアラインを使用する。

以下は効果的な空気清浄呼吸器の種類である: 防塵フィルター付き有機ガス用。

手の保護具: この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。望ましい手袋の素材の例: 塩素化ポリエチレン。ネオプレン。ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたは NBR)。ポリエチレン。エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)。ポリビニルアルコール(PVA) バイトン。許容できる手袋の素材の例: ブチルゴム。天然ゴム(ラテックス)。ポリ塩化ビニル(PVC またはビニル)。注意: 特定の用途と

作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある: 取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件(切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。

眼の保護具: 安全メガネ(サイドシールド付)を着用する。

皮膚及び身体の保護具: この物質に耐薬品性のある保護衣を着用する。作業内容に応じて、顔面シールド、長靴、エプロンまたは全身防護服などの保護具を選択する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态	液体
色	濃灰色 (チャコール)
臭い	かすか
臭いの閾値	データなし
pH	データなし
融点	データなし
凝固点	データなし
沸点 (760 mmHg)	> 35 ° C
引火点	セタ密閉式引火点試験 >100 ° C クリーブランド開放式引火点試験 204 ° C
蒸発速度 (フ・フィルセート=1)	データなし
燃焼性 (固体、気体)	非該当
爆発範囲の下限	データなし
爆発範囲の上限	データなし
蒸気圧	データなし
相対蒸気密度 (空気=1)	データなし
比重・相対密度 (水=1)	0.90
水への溶解度	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
動粘度	60 mm ² /s @ 25 ° C
爆発特性	非爆発性
酸化特性	本製品は酸化性物質としては分類されない。
分子量	データなし
粒子サイズ	非該当

注記: 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性: 反応性危険としては分類されない。

化学的安定性: 通常の状態では安定。

危険有害反応可能性: 強い酸化剤と反応することがある。150 ° C (300 ° F) を超える温度まで空気中で加熱されると、製品はホルムアルデヒドの蒸気を発生することがある。安全な取扱条件はホルムアルデヒドの蒸気濃度を労働衛生安全限界値内に保つことにより維持される。

避けるべき条件: 知見なし。

混触危険物質: 酸化剤

危険有害な分解生成物

危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

急性毒性

急性毒性（経口）

誤飲した場合でも、毒性は非常に低い。少量を誤飲しても有害な影響があるとは予見されない。

製品として。単回経口投与のLD50のデータなし。

成分の情報による：

LD50, ラット, > 5,000 mg/kg 推定値。

急性毒性（経皮）

長時間の皮膚接触で、有害量を吸収することはないであろう。

製品として。経皮LD50は決定されていない。

成分の情報による：

LD50, ラット, > 2,000 mg/kg 推定値。

急性毒性（吸入）

密閉した場所または換気が不十分な場所では、蒸気が容易に蓄積して、意識がなくなったり、死に至ることもある。

製品として。LC50は決められていない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

短時間接触で、局部発赤を伴う軽い皮膚刺激を起こすかもしれない。

長期間の接触で、局所発赤を伴う中等度の皮膚刺激作用を起こすことがある。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

軽度に眼を刺激することがある。

角膜損傷は起こらないであろう。

感作性

皮膚感作性:

モルモットでアレルギー皮膚感作を引き起こさなかった成分を含有する。

呼吸器感作性:

関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性、単回ばく露

入手可能データは特定標的臓器毒性（単回ばく露）を決定するには不十分である。

特定標的臓器毒性、反復ばく露

動物で下記の臓器に影響があると報告されている成分を含有する:

肝臓

発がん性

動物試験で発がん性のなかった成分を含有。

催奇形性

動物試験で、母体に有毒な摂取量の場合のみ、胎児に毒性があった成分を含有する。

生殖毒性

動物試験で、生殖毒性がなかった成分を含有している。

変異原性

試験した成分に関する遺伝毒性試験の結果は、圧倒的に陰性が多かった。動物遺伝毒性試験で陰性だった成分を含有。

吸引性呼吸器有害性

経口摂取や嘔吐の際、肺への吸引の恐れがあり、肺損傷を起したり、化学性肺炎のため死に至ることもある。

毒性分析に影響を与えるコンポーネント:**水素処理重パラフィン系石油留分**

急性毒性（吸入）

同類物質について: LC50, ラット, 4 h, 蒸気, 2.18 mg/l

水素化脱蠟 C24-50 溶剤抽出潤滑油(石油)

急性毒性（吸入）

同類物質について: LC50, ラット, 4 h, 蒸気, 2.18 mg/l

硫化モリブデン

急性毒性（吸入）

LC50, ラット, 4 h, ダスト/噴霧, > 2.82 mg/l この濃度では死に至らない。

蒸留物(石油)、水素処理軽質パラフィン系

急性毒性 (吸入)

LC50, ラット, 4 h, ダスト/噴霧, > 4 mg/l

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

急性毒性 (吸入)

LC50, ラット, オスおよびメス, 4 h, ダスト/噴霧, > 5 mg/l この濃度では死に至らない。

石油留分の溶媒精製重パラフィン

急性毒性 (吸入)

LC50 は決められていない。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

生態毒性

水素処理重パラフィン系石油留分

魚類に対する急性毒性

同類物質の代表値。

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

同類物質について：

LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 半止水式試験, 96 h, > 100 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

同類物質について：

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 半止水式試験, 48 h, > 100 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

NOELR, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 72 h, >100, OECD 試験ガイドライン 201

ErC50, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 72 h, >100, OECD 試験ガイドライン 201

細菌に対する毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

最大無影響濃度, 10 min, > 1.93 mg/l, DIN 38 412 Part 8

無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 半止水式試験, 21 d, 子孫の数, 10 mg/l

水素化脱蠟 C24-50 溶剤抽出潤滑油(石油)

魚類に対する急性毒性

同類物質の代表値。

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

同類物質について:

LC50, *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス), 半止水式試験, 96 h, > 100 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

同類物質について:

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 半止水式試験, 48 h, > 100 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

NOELR, *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻), 72 h, > 100 mg/l, 被験物質: 水性画分

細菌に対する毒性

最大無影響濃度, *Photobacterium phosphoreum* (フォトバクテリウム - ホスホレウム), 4 d, > 1.93 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性

NOELR, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 21 d, 10 mg/l, 被験物質: 水性画分

硫化モリブデン

魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

類似物質について

LC50, 魚類, 96 h, > 100 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

EC50, *Daphnia magna* (オオミジンコ), 48 h, > 100 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

ErC50, 藻類, 72 h, 成長速度, > 100 mg/l

細菌に対する毒性

EC50, 30 h, 呼吸速度, > 100 mg/l

魚類に対する慢性毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

最大無影響濃度, 魚類, 34 d, > 10 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

最大無影響濃度, *Daphnia magna*, 21 d, > 10 mg/l

蒸留物(石油)、水素処理軽質パラフィン系

魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

LC50, Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ), 96 h, > 100 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

EC50, Daphnia magna (オオミジンコ), 48 h, > 100 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

EC50, Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻), 72 h, > 100 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度, Daphnia magna (オオミジンコ), 21 d, 10 mg/l, 被験物質: 水性画分

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

LL50, Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ), 止水式試験, 96 h, > 100 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

EL50, Daphnia magna (オオミジンコ), 止水式試験, 48 h, > 10,000 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

最大無影響濃度, Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻), 止水式試験, 72 h, 成長速度, > 100 mg/l

細菌に対する毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

最大無影響濃度, 10 min, > 1.93 mg/l, DIN 38 412 Part 8

無脊椎動物に対する慢性毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

最大無影響濃度, Daphnia magna (オオミジンコ), 21 d, 10 mg/l

石油留分の溶媒精製重パラフィン

魚類に対する急性毒性

物質は事実上、水生生物に対して急性毒性を示さない(試験した種のうち最も感受性の高い種で LC50/EC50/EL50/LL50 >100 mg/L)。

LC50, Oncorhynchus mykiss (ニジマス), 96 h, > 1,000 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性

LC50, Daphnia magna (オオミジンコ), 48 h, > 1,000 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性

EC50, Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻), 96 h, バイオマス, > 1,000 mg/l

細菌に対する毒性

類似する物質から得られたデータに基づく

最大無影響濃度, 10 min, > 1.93 mg/l, DIN 38 412 Part 8

魚類に対する慢性毒性

最大無影響濃度, Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ), 7 d, 生存, > 5,000 mg/l

無脊椎動物に対する慢性毒性

最大無影響濃度, Daphnia magna (オオミジンコ), 21 d, 子孫の数, > 1,000 mg/l

残留性・分解性

水素処理重パラフィン系石油留分

生分解性: 同類物質について: 厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。

10-day Window: 不合格

生分解: 1.5 - 29 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

水素化脱蠟 C24-50 溶剤抽出潤滑油(石油)

生分解性: 同類物質について: 厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。

10-day Window: 不合格

生分解: 1.5 - 29 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

硫化モリブデン

生分解性: 生分解性は無機物には適用されない。

蒸留物(石油)、水素処理軽質パラフィン系

生分解性: 厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。

10-day Window: 不合格

生分解: 31 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テストガイドライン 301F あるいは同等のもの

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

生分解性: 物質は難分解性であると考えられる(環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。

10-day Window: 不合格

生分解: 2 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テスト ガイドライン 301B

石油留分の溶媒精製重パラフィン

生分解性: 物質は難分解性であると考えられる(環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。物質は本質的に生分解性である。OECD の本質的生分解性試験では生物分解は 20%を超える。

10-day Window: 不合格

生分解: 6 %

曝露時間: 28 d

方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

生体蓄積性

水素処理重パラフィン系石油留分

生体蓄積性: 同類物質について: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF<100, Log Pow>7)

水素化脱蠟 C24-50 溶剤抽出潤滑油(石油)

生体蓄積性: 同類物質について: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF<100, Log Pow>7)

硫化モリブデン

生体蓄積性: n-オクタノール・水分配係数は適用不可。

蒸留物(石油)、水素処理軽質パラフィン系

生体蓄積性: 同類物質について: 生物濃縮の可能性は低い。(BCF < 100 または Log Pow < 3)

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は高い。(BCF>3000、Log Pow : 5-7)

n-オクタノール/水分配係数(log Pow): 3.9 - 6 推定値。

石油留分の溶媒精製重パラフィン

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は高い。(BCF>3000、Log Pow : 5-7)

n-オクタノール/水分配係数(log Pow): 3.9 - 6 推定値。

土壤中の移動性

水素処理重パラフィン系石油留分

関連のあるデータは得られていない。

水素化脱蠟 C24-50 溶剤抽出潤滑油(石油)

関連のあるデータは得られていない。

硫化モリブデン

関連のあるデータは得られていない。

蒸留物(石油)、水素処理軽質パラフィン系

関連のあるデータは得られていない。

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

関連のあるデータは得られていない。

石油留分の溶媒精製重パラフィン

関連のあるデータは得られていない。

オゾン層への有害性

水素処理重パラフィン系石油留分

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

水素化脱蠟 C24-50 溶剤抽出潤滑油(石油)

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

鉱物油の混合物

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

硫化モリブデン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

蒸留物(石油)、水素処理軽質パラフィン系

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

石油留分の溶媒精製重パラフィン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響**水素処理重パラフィン系石油留分**

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) は評価されていない。

水素化脱蠟 C24-50 溶剤抽出潤滑油(石油)

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) は評価されていない。

鉱物油の混合物

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) は評価されていない。

硫化モリブデン

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) は評価されていない。

蒸留物(石油)、水素処理軽質パラフィン系

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性 (vPvB) があるとは考えられていない。

溶剤脱ワックス重パラフィン系石油留分

この物質は、難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) があるとは考えられていない。この物質は、極難分解性・極生体蓄積性 (vPvB) があるとは考えられていない。

石油留分の溶媒精製重パラフィン

この物質の難分解性・生体蓄積性・毒性 (PBT) は評価されていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法: 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び地方条令に定められた方法に従って、焼却等の処理を行う。委託する場合は、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

汚染容器及び包装: 廃容器は内容物を十分除去した後に、法規に従い廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID) :

Not regulated for transport

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG) :

Not regulated for transport

MARPOL 73/78 の Annex I
または II および IBC また
は IGC コードに従い積荷を
運搬する。
Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO) :

Not regulated for transport

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

化審法

特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質に該当しない。

化審法 - 既存化学物質及び新規化学物質リスト (ENCS)

意図的使用成分はすべてインベントリ収載済みなし収載免除ないし供給元認証となっている。

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	濃度又は濃度範囲
モリブデン及びその化合物	>= 1.0 - < 10.0 %

鉱油	>= 90.0 - <= 100.0 %
----	----------------------

名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	濃度又は濃度範囲
モリブデン及びその化合物	>= 1.0 - < 10.0 %
鉱油	>= 90.0 - <= 100.0 %

特定化学物質障害予防規則

非該当

有機溶剤中毒予防規則

非該当

健康障害防止指針公表物質

非該当

変異原性の認められた化学物質 (既存化学物質)

非該当

変異原性の認められた化学物質 (新規届出化学物質)

非該当

労働安全衛生法施行令 - 別表第一 (危険物)

非該当

消防法

第 4 類 引火性液体, 第四石油類, (指定数量 6000 リットル), 危険等級 III, 火気厳禁
鉱油混和物

毒物及び劇物取締法

非該当

化学物質排出把握管理促進法

第 1 種指定化学物質

化学名	濃度又は濃度範囲
モリブデン及びその化合物 (モリブデンとして)	2.0 %

高圧ガス保安法

非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

産業廃棄物

16. その他の情報

改訂

ID 番号: 2729121 / A857 / 発行日: 2018/10/17 / 版番号: 4.0

最新の改訂事項は、この文書全体にわたって、左側の余白に太字の二重線で強調してある。

凡例

(L)	全ての経路によるばく露を出来る限り低く抑えるよう、注意深く管理すること。
ACGIH	米国。ACGIH 限界閾値 (TLV)
OEL-M	許容濃度
TWA	8 時間、時間加重平均
日本産業衛生学会 (許容濃度)	日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I. 化学物質の許容濃度

その他の略語の全文

AICS - オーストラリア化学物質インベントリー; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; CPR - 管理製品規則; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存および新規化学物質リスト; ErCx - 任意の X% の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 化学品の分類および表示に関する世界調和システム; GLP - 優良試験所規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50% 阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50% 致死濃度 (半数致死量); LD50 - 50% 致死量 (半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n. o. s. - 他に規定のない限り; Nch - テリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性 (物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q) SAR - (定量的) 構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法 (米国); UN - 米国; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

デュポン・東レ・スペシャルティ・マテリアル株式会社は、お客様や (M) SDS の受領者の皆様が、この (M) SDS の掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M) SDS を慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのもので、製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。各製造会社固有の (M) SDS などの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した (M) SDS に関して

は一切責任を負いません。他の情報源から入手した (M) SDS をお持ちの場合や、お手元の (M) SDS が最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。

JP